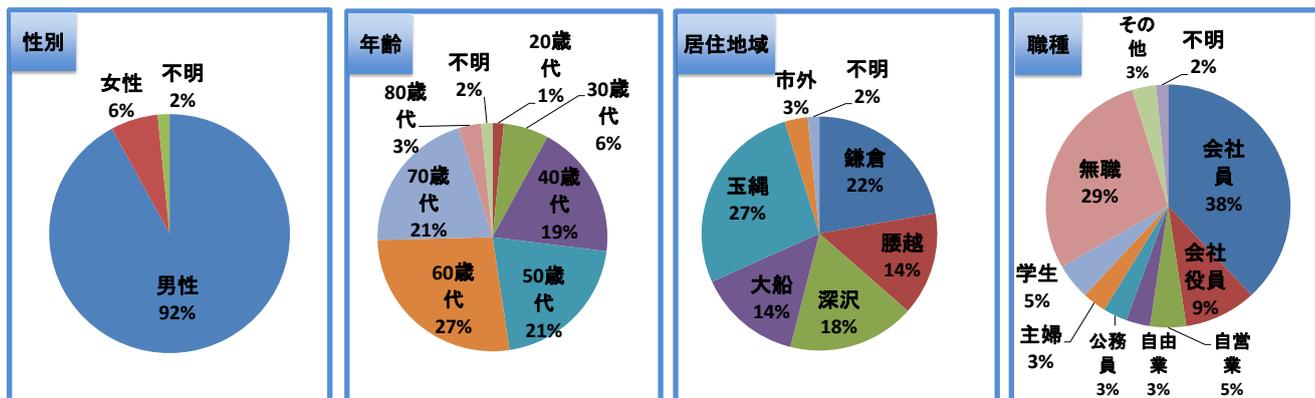


第17回市政e-モニターアンケート集計結果

【テーマ】 選挙啓発活動について

アンケート送信日 平成25年12月20日(金) (未着者再送12月24日(火))
 アンケート実施期間 平成25年12月21日(金)～平成26年1月9日(木)
 送信者数 260名(着信者数 257名)
 回答者数 64名
 回答率(対着信者数) 24.9%

【今回の回答者の基本属性】



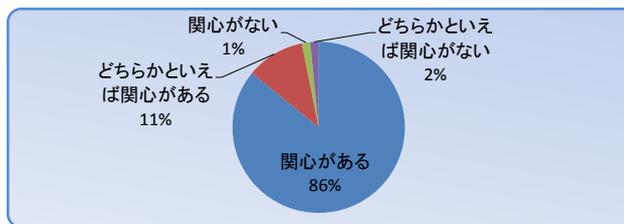
1. 次の各選挙に対して、どの程度関心がありますか？

●質問1-1 ● 衆議院議員総選挙

	(名)
1 関心がある	55
2 どちらかといえば関心がある	7
3 関心がない	1
4 どちらかといえば関心がない	1

《関心がない理由、ご意見》

- ・ 個人を選んでも政党の中でその人の考えが消されるから。
- ・ 民意が反映されているとは思えないから。

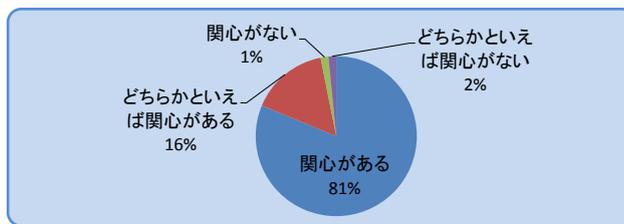


●質問1-2 ● 参議院議員通常選挙

	(名)
1 関心がある	52
2 どちらかといえば関心がある	10
3 関心がない	1
4 どちらかといえば関心がない	1

《関心がない理由、ご意見》

- ・ 現状の参議院議員存在意義に疑問があるから。
- ・ 個人を選んでも政党の中でその人の考えが消されるから。



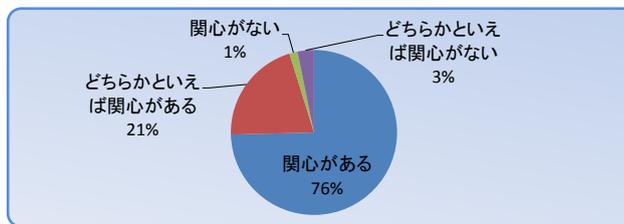
●質問1-3 ● 神奈川県知事選挙

	(名)
1 関心がある	47
2 どちらかといえば関心がある	13
3 関心がない	1
4 どちらかといえば関心がない	2

1名無回答

《関心がない理由、ご意見》

- ・ 身近に感じられないから。
- ・ 生活に影響ないから。
- ・ (関心がある理由) やっていることがはっきり見えやすい。



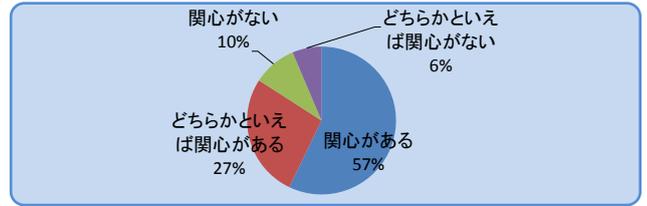
●質問1-4● 神奈川県議会議員選挙

			(名)
1	関心がある		36
2	どちらかといえば関心がある		17
3	関心がない		6
4	どちらかといえば関心がない		4

1名無回答

《関心がない理由、ご意見》

- ・地域移管で県政の担う役割は、縮小しているから。
- ・身近に感じられないから。
- ・自分との関わり合いが薄いから。
- ・人物を知らないから。
- ・議員の日頃の活動・主義主張がわからないから。
- ・生活に影響ないから。
- ・候補者になじみがないから。
- ・政令市及び中核市で人口の75%を占める極めて歪な県政です。選挙区の人口割合で県議会議員の数が決まるので、左記以外の地域の実情、問題の多数を占める左記地域の選出議員で判るのかと思う。

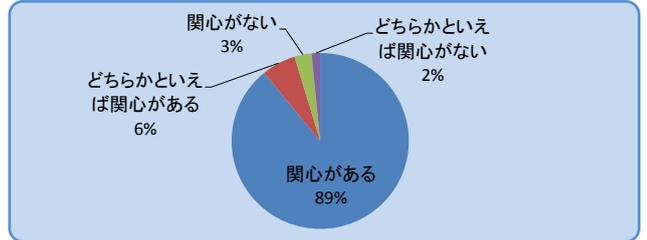


●質問1-5● 鎌倉市長選挙

			(名)
1	関心がある		57
2	どちらかといえば関心がある		4
3	関心がない		2
4	どちらかといえば関心がない		1

《関心がない理由、ご意見》

- ・あまりにも立候補者が魅力がないから。
- ・（関心がある理由）今の市長は親しみやすく、意見を取り入れてくれそうだから。



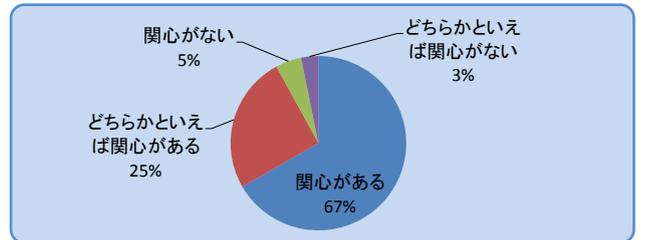
●質問1-6● 鎌倉市議会議員選挙

			(名)
1	関心がある		42
2	どちらかといえば関心がある		16
3	関心がない		3
4	どちらかといえば関心がない		2

1名無回答

《関心がない理由、ご意見》

- ・市議会議員の活動が見えないから。
- ・広報以外で直接接したり、見に触れたりする機会が少ない。また、市議会活動そのものが分かりにくい。



《選挙管理委員会から》

皆さんの関心は生活により身近な選挙のほうが高いことがわかりました。過去の選挙の結果では、市の選挙よりも国政選挙のほうが投票率が高く、関心の度合いと投票率は必ずしも連動しているわけではないことがわかりました。

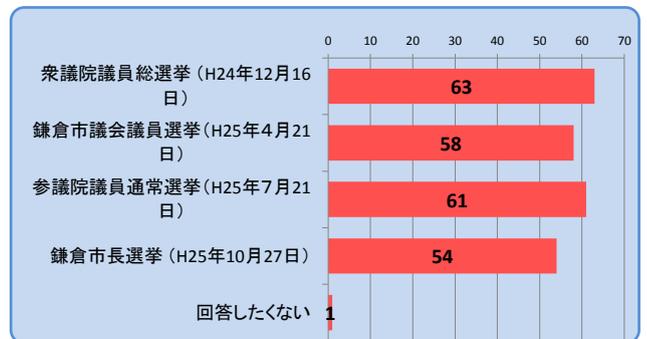
2. 投票について

●質問2● 平成24年12月から平成25年10月までに行われた選挙のうち、投票したものをお答えください。（複数回答可）
※「投票の秘密」を保障するため、回答したくない場合は「5」のみをお選びください。

			(名)
1	衆議院議員総選挙（平成24年12月16日）		63
2	鎌倉市議会議員選挙（平成25年4月）		58
3	参議院議員通常選挙（平成25年7月）		61
4	鎌倉市長選挙（平成25年10月27日）		54
5	回答したくない		1

《選挙管理委員会から》

回答いただいたほとんどの方が、国政選挙は投票していることがわかりました。地方選挙については、期日前投票期間が短いということが少なからず影響しているのかもしれない。



3. 投票しないことについて

●質問3 ● 問2でひとつでも投票しなかった選挙がある方に伺います。投票しなかった理由をお聞かせください。【自由記載】
※「投票の秘密」を保障するため、回答したくない場合は空欄で結構です。

- ・ 候補者に支持する人がいなかった。
- ・ 個人を選んでも政党の中でその人の考えが消される。
- ・ 鎌倉市長選挙、鎌倉市議会議員選挙は、結果が予想できたから。
- ・ 鎌倉市長選挙は、選挙期間が短く仕事が忙しかったり天候が荒れていたりいつの間にか終わってしまった。
- ・ 鎌倉市長選挙は、候補者に支持する人がいなかった。
- ・ 鎌倉市議会議員選挙では、どの候補者にするか決めきれなかったから。
- ・ 参議院議員選挙は、参議院自体なくなった方がよいと思っているから。
- ・ 都合が付かなかったため。
- ・ スケジュール調整のミス。
- ・ コチラが聴きたい。なぜ投票しない人がいるのか？

《選挙管理委員会から》

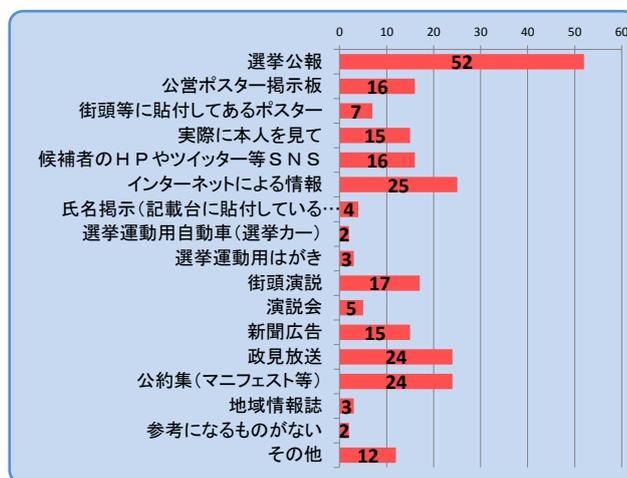


多くの方が、棄権という形で意思表示していることが分かりました。しかし、投票する予定だったが、日程の問題で投票できなかったという声もございますので、市内5ヶ所に設置している期日前投票所の周知について、他市などの状況を踏まえながら、より周知できるよう努めてまいります。

4. 候補者選びについて

●質問4-1 ● 国政選挙（衆議院・参議院）の際、参考にするものについてお聞かせください。（複数回答可）

		(名)
1	選挙公報	52
2	公営ポスター掲示板	16
3	街頭等に貼付してあるポスター	7
4	実際に本人を見て	15
5	候補者のHPやツイッター等SNS	16
6	インターネットによる情報	25
7	氏名掲示（記載台に貼付している候補者の氏名一覧）	4
8	選挙運動用自動車（選挙カー）	2
9	選挙運動用はがき	3
10	街頭演説	17
11	演説会	5
12	新聞広告	15
13	政見放送	24
14	公約集（マニフェスト等）	24
15	地域情報誌	3
16	参考になるものがない	2
17	その他	12

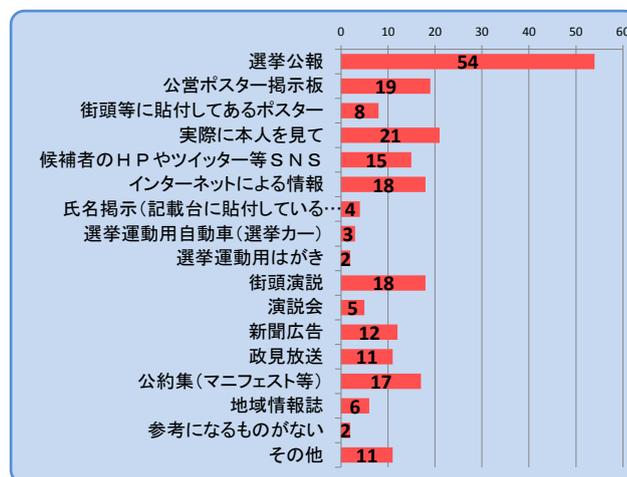


《その他、回答者からのご意見》

- ・ 所属政党。
- ・ 支持する政党。
- ・ 候補者の日常の活動。
- ・ 候補者が普段配布している活動報告など
- ・ 候補者の人間性。
- ・ 日頃のメディア出演。
- ・ 友人・知人からの情報。
- ・ マスコミのフィルターがかからない物全てで判断。
- ・ 雑誌などの発行物。マニフェストがまとまっているもの。

●質問4-2 ● 地方選挙（県知事・県議・市長・市議）の際、参考にするものについてお聞かせください。（複数回答可）

		(名)
1	選挙公報	54
2	公営ポスター掲示板	19
3	街頭等に貼付してあるポスター	8
4	実際に本人を見て	21
5	候補者のHPやツイッター等SNS	15
6	インターネットによる情報	18
7	氏名掲示（記載台に貼付している候補者の氏名一覧）	4
8	選挙運動用自動車（選挙カー）	3
9	選挙運動用はがき	2
10	街頭演説	18
11	演説会	5
12	新聞広告	12
13	政見放送（県知事のみ）	11
14	公約集（マニフェスト等）	17
15	地域情報誌	6
16	参考になるものがない	2
17	その他	11



《その他、回答者からのご意見》

- ・ 所属政党。
- ・ 候補者の日常の活動。
- ・ 候補者が普段配布している活動報告など。
- ・ 候補者の人間性。
- ・ 友人・知人からの情報。
- ・ マスコミのフィルターがかからない物全てで判断。

《選挙管理委員会から》

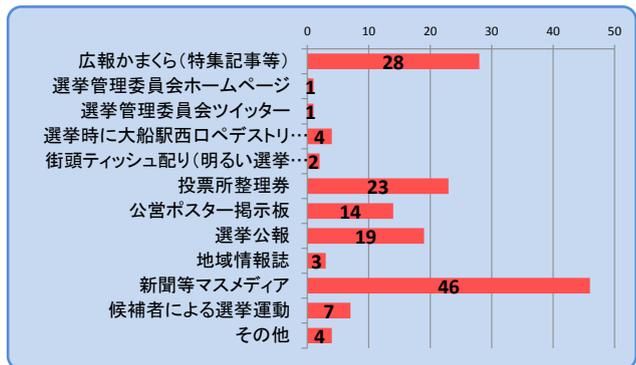


どの選挙に関しても、選挙公報を最も参考にされていることが分かりました。また、H25年7月の参院選から使えるようになった、SNSなどの「インターネットによる選挙運動」に関しても、多くの方が参考にしていることが分かりましたので、今後も禁止事項等の周知を充実させてまいります。

5. 投票日の周知について

●質問5-1 ● 国政選挙（衆議院・参議院）について伺います。選挙があることは、なにで知ることが多いですか。（複数回答可）

		(名)
1	広報かまくら（特集記事等）	28
2	選挙管理委員会ホームページ	1
3	選挙管理委員会ツイッター	1
4	選挙時に大船駅西ロベドストリアン デッキに掲げる横断幕	4
5	街頭ティッシュ配り（明るい選挙推進 協議会の協力のもと）	2
6	投票所整理券	23
7	公営ポスター掲示板	14
8	選挙公報	19
9	地域情報誌	3
10	新聞等マスメディア	46
11	候補者による選挙運動	7
12	その他	4

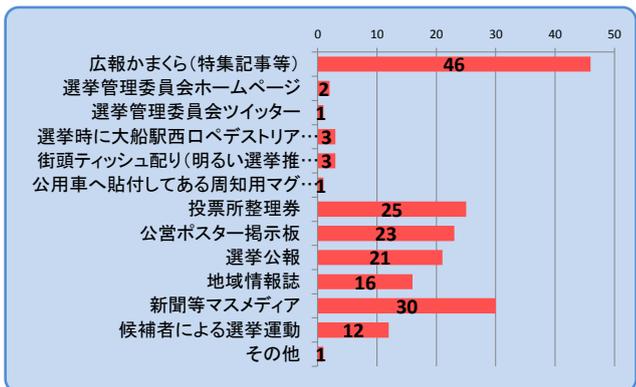


《その他、回答者からのご意見》

- ・ 小学校からの連絡。
- ・ インターネットメディア。
- ・ 友人・知人からの情報。
- ・ 質問の意味がわからない。知らない事がおかしい。

●質問5-2 ● 地方選挙（県知事・県議会・市長・市議会）について伺います。選挙があることは、なにで知ることが多いですか。（複数回答可）

		(名)
1	広報かまくら（特集記事等）	46
2	選挙管理委員会ホームページ	2
3	選挙管理委員会ツイッター	1
4	選挙時に大船駅西ロベドストリアン デッキに掲げる横断幕	3
5	街頭ティッシュ配り（明るい選挙推進 協議会の協力のもと）	3
6	公用車へ貼付してある周知用マグネッ ト貼付（市議選・市長選のみ）	1
7	投票所整理券	25
8	公営ポスター掲示板	23
9	選挙公報	21
10	地域情報誌	16
11	新聞等マスメディア	30
12	候補者による選挙運動	12
13	その他	1



《その他、回答者からのご意見》

- ・ SNS等インターネット。
- ・ 友人・知人からの情報。
- ・ 質問の意味がわからない。知らない事がおかしい。

《選挙管理委員会から》

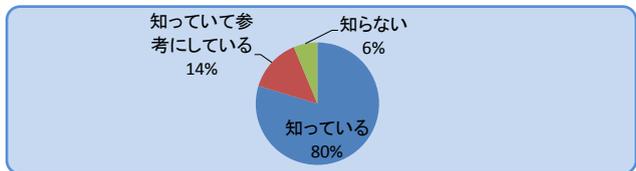
国政・地方共に「広報かまくら」と回答していただいた方がたくさんいらっしゃいました。今後もより良い内容を掲載できるよう努めさせていただきます。

その反面、選管のホームページやツイッターと回答いただいた方は少数であったため、周知や内容について改善できるよう努めてまいります。

6. 選挙管理委員会では、様々な選挙啓発活動を行っていますが、次の活動について、どの程度ご存知ですか。

●質問6-1 ● 広報かまくら（特集記事等）

		(名)
1	知っている	51
2	知っている参考になっている	9
3	知らない	4



●質問6-2 ● 選挙管理委員会ホームページ

		(名)
1	知っている	20
2	知っている参考になっている	5
3	知らない	39



●質問6-3● 選挙管理委員会ツイッター

		(名)
1	知っている	10
2	知っていて参考になっている	0
3	知らない	54

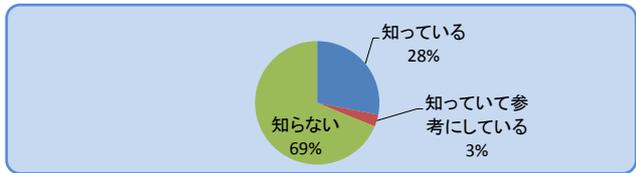
《その他、回答者からのご意見》
 ・ ツイッターは使いません。



●質問6-4● 選挙時に大船駅西口ペDESTリアンデッキに掲げる横断幕

		(名)
1	知っている	18
2	知っていて参考になっている	2
3	知らない	44

《その他、回答者からのご意見》
 ・ 大船駅西口に降りる機会が少ない。



●質問6-5● 街頭ティッシュ配り（明るい選挙推進協議会の協力のもと）

		(名)
1	知っている	9
2	知っていて参考になっている	0
3	知らない	55

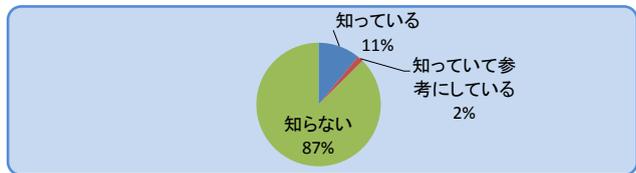
《その他、回答者からのご意見》
 ・ もらった記憶がありません。



●質問6-6● 公用車へ貼付してある周知用マグネット貼付（市議選・市長選のみ）

		(名)
1	知っている	7
2	知っていて参考になっている	1
3	知らない	56

《その他、回答者からのご意見》
 ・ 公用車に注意を払って見ることはありません。



●質問6-7● 若年層向け選挙啓発事業「未来鎌倉市」（平成24年度開催）

		(名)
1	知っている	3
2	知っていて参考になっている	0
3	知らない	61

《その他、回答者からのご意見》
 ・ 聞いたことがある程度です。



●質問6-8● その他

		(名)
1	知っている	4
2	知っていて参考になっている	0
3	知らない	35

無回答25名

《その他、回答者からのご意見》
 ・ 小学校からの連絡。




 《選挙管理委員会から》
 9割強の方が、広報がまくらで行っている選挙啓発活動をご存じということが分かりました。日頃から目にする機会があるためと思われます。そのため、日頃から使用できるツイッターなどを充実させ、多くの方に知っていただけるよう努めてまいります。

7. ご意見・ご要望等

●質問7● 問6の選挙啓発活動について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。【自由記載】

- ・ 投票後、開票始まったばかりでメディアでの当確が出る等、選挙制度自体がおかしな事になっていると思います。日本全国規模で開票に疑念を持たれるような事が起きているようです。疑念を持たれない、選挙が公正に行われるという事が投票率を増やす為にも、非常に重要な事だと思います。
- ・ 公示から投票日までの日数が短く、用事が入り、投票がしづらいことがあった。期日前投票をしっかりと候補者選びをして行うならば、もう少し期間が欲しい。



⇒いわゆる「当選確実」という情報は、各報道機関が事前の世論調査を含めた独自の調査により発表しているもので、投票所閉鎖時刻を過ぎていけば、選挙の公正性に影響を及ぼすものとは考えていません。また、開票作業そのものについては、選挙区内の選挙人の方ならば参観（見学）していただくこともできますので、ご興味のある方は選挙当日の開票所へお越しください。

公示日（告示日）と投票日及び期日前投票期間の問題に関しては、全国的に懸案事項となっております。今後も、選挙人の方々の利便性向上を目指し、法律の改正等を働き掛けていきます。

- ・メールマガジンの活用。
- ・単に投票して欲しいと呼びかけてみても、それで投票に行くと考えるのは甘すぎる。個々の人々が投票に行きたいと思わなければ無理だと思ふ。それに投票を呼びかける方法も、私が問6-2~8までを知らないということは、PRの効果が少ないということでもある。皆に投票する気持を持たせるためには、行政に対する関心をもってもらわなければならない。そのためには行政の実態や問題点を分かりやすく国民や市民に知らせる努力が一番である。全ての人の身近な問題として、考えてもらう工夫がなされなければならない。そして、自分たちの生活や環境が自分たちの力で改善していくという意識を共有してもらうことができれば、関心が増えるはずである。今は投票しても変わらないと諦めている人々が多い。広報がまくらなどには、インフォメーションなどお知らせが多く掲載されているが、どれだけ利用されているのか疑問である。もっと広報には、鎌倉が直面している問題を具体的に提起して、市長の主張や議会の言い分などを市民も一緒に考える紙面を作るべきではないかと思う。地方の自治体の中で、高い投票率を保っているところもあるようであるから、それら地域の実態を見聞して学ぶことも必要であろう。
- ・Twitter、FacebookなどのSNSは、情報の受け手が受け手の求める情報のみを得る「情報偏食」の傾向がある。また、高齢の方も親しみを感じていない方も多いため、あまりSNSを用いた選挙啓発活動はあまり効果的ではないのでは。そのため、家でゆっくり見ってもらうためにも新聞の折り込み広告や、広報がまくらの号外版のようなものがあればと思う。
- ・東京などへの通勤者・通学者は平日昼間の啓発活動に全く触れられない。マスメディアやインターネット、紙媒体の有効利用が良いように思います。
- ・現状のままでもいいと思うが、それよりもまず、なぜ選挙に投票すべきなのかという選挙の意義に関して、選管の広報はなおざりにしているのではと考えている。ツイッターやフェイスブックを運営するより、一般市民と直接対話する機会を増やすべきではないだろうか。
- ・防災鎌倉のメール配信、アナウンス、交通量や人が集まる場所への横断幕掲示など、意識しなくても認識できるような周知方法を活用した方がいい。
- ・広報がまくら以外は見たことがない、家をあまり出ない人にはインターネットが便利。広報での宣伝を。
- ・町内会長に協力してもらう方法を考える事。
- ・最近、ケーブルテレビ(JCN鎌倉)の視聴率が、特に若年層で高くなっているようだから、これに乗せては？



⇒選挙時には、ツイッター・フェイスブック等により情報発信を行い、期日前投票の問い合わせ等一定の効果は得られましたが、選挙がないときの啓発活動も充実していこうと考えています。

- ・選挙のとき急にどうかと聞かれても分かりにくい。通常の活動が耳や目に入るとよいと思います。例えば市議会の様子。小学校から高校まで通して、政治の仕組みとを教えて、民主主義を教えるとともに、市議や市長、行政の仕事を実際に体験させる。子供たちにどのような政治がもっとも合理的で効率的で有効なのかを研究させる。家庭内で政治の話ができる環境作りを鎌倉市が推奨する。
- ・選挙が一人ひとりの生活に影響があることを知らせる。
- ・選挙の時だけ関心を持つ様子が言われてもなかなか難しい。行政として我々市民に関心を持ってもらいたいことを常日頃から情報発信しておくことが、重要だと思う。
- ・また、昔に比べて行政（鎌倉市）のホームページも充実されて来ているとは感じるが、まだまだでんご盛りの情報提供であり市民の側から関心を持って取りに行かないと情報が手に入らない。誰にでもどんな角度からでも利用できる様という行政の情報提供に関するサービス精神は分かるが選挙、公共施設見直し、ゴミ問題など市民に関心を持たせたいテーマについてはもう少し集中的に関心を盛り上げる様な仕組み作りが必要と感じる。
- ・委員会のメンバーでも無いのに長い時間を掛けて熱心に意見を述べ続けるもの好きもあまりいないのではないかと？情報を発信される側の視点での見直しが必要と思う。そういう普段の啓蒙活動が選挙投票率のアップにつながるのではないかと？
- ・選挙啓発活動に意味がない。選挙に関心がないのではなく、県の動きや、市議会の動きがわからないから。投票率を上げる啓発活動をするのではなく、県民、市民を向いた県議、市議の日ごろの活動報告がなければならぬと思う。
- ・市議会議員選挙は全く低調である。日頃から議会活動状況を積極的に知らすこと。選挙期間中のみ、申し訳程度に活動しても駄目。議員定数を減らすこと。
- ・政治が身近に感じられない状況では、選挙に関心が持てない。
- ・市長、市議会議員のマニフェストに触れる機会が少ない。



⇒選挙管理委員会でも、選挙直前に投票を呼び掛けることだけではなく、日頃から政治・行政に興味を持っていただくことが、課題だと考えています。今後は、このような視点をもった啓発活動も進めていきます。



⇒秘書広報課 広報担当

市ホームページについては、本市より市民のみなさんに特にお伝えしたい内容については、同じトップページの「便利ガイド」や「鎌倉市の取り組み」に挙げているところです。できるだけ、市の重要事項を市民のみなさんにお伝えしたいと思っておりますが、他のお伝えしたい情報や市民のみなさんが知りたい情報もあり、バランスを保ちながらホームページを運用しております。この度のご意見も参考させていただき、引き続き情報が整理されたホームページを目指していきたく思います。

- ・「期日前投票制度」をもっと周知徹底するべき。「選挙は面倒だ、面倒くさい・・・」のイメージを払拭する。お子様連れの投票者には「風船」をあげるとか・・・気軽に投票でき、関心を持たせる。投票場所がなんとなく「冷たい・堅苦しい」雰囲気があるのでBGMをかけるとかソフトな雰囲気にする。
- ・期日前投票のできる場所をJR駅付近にも設け、時間帯を夜8時頃までできるようにすれば、通勤者等の投票率を上げることができるとは思いますが、
- ・期日前投票がとて面白いと思います。



⇒期日前投票者数は、選挙を重ねるごとに増加しています。また、市内5カ所（市役所本庁舎及び各支所）に期日前投票所を設置しており、人口規模を考慮すると、県内市区町村の中では最多の設置数になっています。（藤沢市＝6カ所、茅ヶ崎市＝2カ所、横須賀市＝10カ所、逗子市＝1カ所）

- ・選挙に啓蒙が必要とは思いません。市民、国民としての義務を果たしていないこととなるので、法律で罰するべきだと思います。
- ・選挙権を行使することは、市民の権利であり、義務です。いたずらに広報にお金をかけるより、義務教育の段階から、そのことを周知徹底すべきです。なお、市長選挙で投票率が低かったのは、啓蒙活動の不足などではなく、全く別の理由です。
- ・投票しない人は物を申す権利を放棄。投票は国民の義務である。投票に行きましょう！ではダメ。
- ・投票は国民、市民の義務であることは学校教育で教えられているが、小学教育でさらに徹底すると良い。



⇒選挙権は、憲法に保障された権利です。義務ではありませんので、棄権に対して罰則を設けることはできません。

- ・何をやっても見ないものは見ない。何らかのポイントをつけた投票所整理券を早く送る。
- ・そもそも、選挙に行かないこと事態が問題。白紙を投票するののも一つの意思表示。その意思表示をしないことは国や自治体の活動に対して評価を下すという責任を果たしていないのでは？本当に若年層（もしくは正当な理由無く投票しない人）に投票させるためには、投票しないと罰則金を支払うような対策を打たないとダメでは？（繰り返すが白紙はOK）



⇒法律上、罰則を設けることは不可能ですが、皆様への周知を徹底するよう啓発活動を行っていこうと考えています。

- 看板やあまり熱心に読まれない文書類は効果が薄い。やってもやらなくても同じ。
- 選挙啓発は不要です。なぜ投票率が低いかは、それだけ政治家に期待していないことによります。政治の劣化です。今回の市長選挙は投票に値する人がいなかったことが低い投票率になったのです。松尾市政に反対の意思表示です。
- 選挙権の行使は自由で、なぜ啓発にコストをことさらかけるの理解できない。
- 選挙啓発活動することに意味はない。
- 選挙啓発活動をいくらしても、魅力ある候補者が出て来ない限り選挙には行かないと思う。投票率の低下は選挙管理委員会の責任ではない。



⇒投票日を忘れてしまうなどで棄権してしまうことの無いよう今後も啓発活動は続けますが、なるべくお金がかからない範囲で投票日等の周知をしてまいります。

- 情けないことだが、実施した方がベターとの認識はある。
- 選挙公報と新聞広告で十分です。
- 選挙によって国ほか大事なことが決まるので、棄権はしない。ゴミから秘密まで、選挙に関心ない人は戦争に行かされることになるかもしれないぞ。
- 民意が反映されない国政・県政では 何を言っても無駄とあきらめの心境の方々が多いのでは？



《選挙管理委員会から》

選挙啓発活動について、たくさんのご意見・ご要望をいただきありがとうございます。皆様のご意見ご提案を踏まえて、よりよい活動方法について検討し、努力してまいります。

8. 投票率の向上について

●質問8● 特に投票率の低い若年者にも投票していただくためには、どのような工夫が必要だと考えますか。【自由記載】

- ネット投票の導入や繁華街での期日前投票所の設置。
- 当面は期日前投票の利用の積極的なPR。将来は、難しいが電子投票（ネット投票）が可能になれば。
- 海外の制度事例を日本でも試みる。また政治、国家予算を身近に理解するためには、源泉徴収制度を戦時前のようになくすることが手取り早い施策と思われる。
- 日頃からどの立場の政治家が何をしているかを広く広報すること。自分には関係ないと思っているから投票しないのだと思
- 若年者が活動しているところで市や県が、担当していることを説明する機会を作る。説明には議員さんが出られるのがいいと思います。
- 「期日前投票制度」をもっと周知徹底するべきだ。「選挙はめんどうだ、めんどうかい・・・」のイメージを払拭する。お子様連れの投票者には「風船」をあげるとか・・・気軽に投票でき、関心を持たせる。投票場所がなんとなく「冷たい・かたぐるしい」雰囲気があるのでBGMをかけるとかソフトな雰囲気にする。
- テレビでの党首討論会や候補者討論会の内容を具体的に分かりやすいものにする。メリット・デメリットを明確にする。
- 学生層や若年、中年の主婦層に対して、スーパー、コンビニ等に掲示、チラシ等で意識を喚起することもいいのではない
- ネットで懸賞論文の募集をしてみたらいかがでしょう。
- 住民による投票が今の鎌倉市を含めた周辺市町村、県、国の政策を大きく動かす原動力となった過去の選挙・投票を紹介し、自身が持っている「1票」が政治を動かしていることを再確認させる。議員自身の創意工夫。例えば、どこぞの市長が作ったような〇〇レンジャーのように有権者を馬鹿にしたようなものではなく、身近に感じつつ、人の心をつかむような深みのある選挙活動にしてゆく工夫(抽象的で失敬)。
- たぶん、若い人の人気を、もっと啓蒙運動に使うといいのでは。
- 若年者の声を組み上げて、自分たちの意見が反映される実感を持ってもらうような施策が大切だと思います。
- 地域での知り合い同士で声かけし、誘い合わせて参加するなどでしょうか……。
- 選挙が始まってから広報するのは遅い。日常的に、市政を公開する方法を抜本的に改革することが重要。
- 駅、ショッピングモールなど、外出のついでなど、投票所以外で投票できる仕組み。投票用紙がなくても、投票の公平性が確保できる仕組み。
- ある市では、20歳になった人に、当日選挙の事務や立会人の仕事をさせた結果、参加者から選挙に対する認識が深まったという回答が多かったという話があった。そもそも今の若者は、選挙という言葉は知っていても、選挙がどういう仕組みで動いているのかを知らない人が多いのではないかと思う。そうした試みを通じて、若者層へ選挙に行くという意識を身につけられれば、投票率の向上につながるのではないかと考えられる。
- 鎌倉市は「期日前投票制度」が充実しているが、これがどれ位市民に知られているか？この周知が必要。【小生が聞いた範囲内では、予想以上に知られていない。】



⇒様々な提案をありがとうございます。参考にさせていただきます。

特に期日前投票について、投票日の周知と共に周知を行っておりますが、十分な周知に至っていないのが現状の様です。今後も方法等を検討しながら周知に努めてまいります。

- お金や金券では問題があると思うが、鎌倉のみで使用できるクーポンの配布とか。
- 選挙へ行くことへのインセンティブをつけられたい。選挙に行くとか鎌倉市内での消費税がただになるとか、鎌倉在住の芸能人が受付をする。外に出れない有権者のために、投票箱を乗せた車が鎌倉市を巡る、連続投票者には鳩サブレ食べ放題、コンビニで投票できるなど。
- 特典が必要。遠隔地学生等の不在地投票手続を簡略化する。基本は「痛い目にあわなければわからない。」ということ。
- 選挙は権利であるとともに、納税同様の義務とし、消費税を上げるくらいなら、選挙に行かない人から罰金を取るべき。投票したい候補者が居ないなら、無記入票を投票すべきで、投票に行く労力を惜しむべきではない。
- 選挙に啓蒙が必要とは思いません。市民、国民としての義務を果たしていないこととなるので、法律で罰するべきだと思います。
- 投票したら納付した市民税等を一部還付するにすれば、投票率も上がると思います。
- ある程度の強制策が必要だと思います。罰金がダメなら、最初に投票該当者全員に一律の選挙協力金を支払って貰い、投票したら返金するとか…また、連続して投票に行かないと累進的に金額を加算していくとか…



⇒投票に付加価値をつけることは、選挙管理委員会としてはできません。また、罰則についても、法律上できません。したがって、情報提供を主とした啓発活動を今後も継続していこうと考えています。

- 義務教育の段階から、そのことを周知徹底すべきです。公正な立場で、子どもたちに教えるよう、先生の教育が先かも知れ
- 小学生のころから民主主義の基本をレクチャーするしかない。
- これからの社会が選挙の結果で決まっていくことを良く分らせることが必要。
- 効果はないのでは？投票すると商品券がもらえるとかそんな事はできるはずも無いです。高校や大学等で、選挙や政治、制度の授業を増やす等、中長期的な取り組みが必要だと思います。
- 中学・高校等の授業で、選挙前後に選挙の話題を織り交ぜた内容の授業を何回か行う。選挙前に争点について話し合う、選挙結果について話し合うなど(教師による誘導や啓蒙が入ると主旨が変わってしまうので中立の立場での実施が求められ、かつ、興味を導き出す必要があるのでは、難しいかも知れませんが…)。
- 学校教育、ネット、広報、NHK。

- 政治家がしっかりした政治をしなければ当然見放されるが、やはり家庭の親の選挙に対する教養も必要では。うちの子供たちは行ける限りは行っている様です。
 - 若年層に向けても同じようなことが必要だが、学校教育で、生徒同士で選挙に関しても大いに議論する場を上げて行くべきだろう。どこかの国でやっているように、選挙に行かなかったら、就職試験が受けられないといった制度もできれば賛成だ
-  ⇒最近では、大学などの研究機関で、義務教育や高校で民主主義や政治について学ぶ「シチズンシップ教育」の研究が進められています。鎌倉市選挙管理委員会でも、研究者の方との意見交換を行ってきました。将来的にこの「シチズンシップ教育」の導入の可否についても課題になるかもしれません。

- 「誰が当選しても変わらない」という諦めムードが蔓延しているので、当選した議員が地元のために誠心誠意尽くすことが先決と思う。
- 選挙啓発活動をいくらしても、魅力ある候補者が出て来ない限り選挙には行かないのでは。投票率の低下は選挙管理委員会の責任ではない。
- 魅力ある政治家の出現、ユニークな政策、既得権益を打ち破る勇気ある政治家の出現。
- 公的機関が若年層の投票率アップのために何をやっても無駄だろう。実際に投票率を上げるには、若者にとって投票しないと損をする、この人を当選させたいという候補者がいなければどうしようもないことだと思う。投票しない人は無視して、投票する人のための国・県・市を作ればよい。投票率が低い当選者を批判する論調もあるが、あれは間違い。低い投票率は投票した者にとって有利になることでよいのだ。投票しない者は自分の権利を放棄しているのだから仕方がない。
- 政治家にもっと優れた人が多く派出すれば、期待して投票します。今回の市長選挙が典型的事例です。現在の議会制民主主義に限界がある。投票した政治家をすべての政策で支持しているわけではないのに、当選した人はすべて支持を得たと訴え政治活動をおこなう。一方選挙以外に選挙民はうたえることができない。この問題を解決する新しい政治制度を構築することができない。学者もこの問題を解決することができないか、模索している現状。投票率は小手先の方法では改善しませ
- 誰に投票しても、世の中変わらず、自分にも影響が無い。この間違ったイメージを変えるアクションを行政・メディアで起
- 政治家の熱情が不足している（就職活動の政治家にすぎないので）、誰も（若者だけでなく）、興味を持ってない。冷め
- 政治そのものへの信頼の回復。候補者の政党べったりの姿勢を改める（自らの意思・主張）。
- 候補者が公約を守り、若年層にも自分達の将来に期待を持ってもらうような変化をもたらす事。現状では、議員の私利私欲で世の中が動いており、誰に投票しても変わらない又はかえって悪くなるという考えが蔓延していて、投票に行こうとする意欲が湧かない。ここを改善しなければいくら選挙啓発活動を行っても、効果は上がらないと思う。
- 若年者の身の回りの生活に関連する政治をやってほしい。これは国民一般にも通じることです。

 ⇒選挙管理委員会が実施可能な啓発活動を今後も継続していこうと考えています。

- 年齢を重ねたら選挙に行くと思う。特に啓蒙する必要なし。
- 若者は情報に敏感。どんなテーマをぶつければ選挙は自分達の意見を代弁する代表者選択の機会として捉えてもらえるか、良く考えることが重要。若年者に投票して頂く意見の聴取等は止めて自分達に関心のない議題やいくら意見を述べても反映されない仕組みに反省のメスを入れることが必要。単なる権利放棄ではなく、積極的に投票に参加しないことで自分達の意見を主張している人も増えていると感じる。
- 投票して「頂く」ということがおかしい。享受できる権利を勝手に放棄しているか選挙制度自体を否定する意思を持っているかではないか。それもまた政治的な自由だと思う。
- 何の為に投票するのか、投票する意義とか、効果を繰り返し伝えていくしかないのか。難しい問題だと思います。
- 政治が生活に密接していることを学習させなければならないが、どうしても一定の社会人生活経験が必要なのではないだろうか、と思います。決定打は思いつきません。
- 選挙啓発活動することに意味はない。
- 無理に投票率を上げるために、貴重な税金を使う必要はない。



〈選挙管理委員会から〉

若い方への選挙啓発については、試行錯誤をしている段階です。今回、皆様からいただいたご意見も、今後の事業に反映していきます。



〈選挙管理委員会から〉

全国的に低投票率が問題視されている中、ご回答いただいた方々のほとんどが必ず投票に行き、政治への関心がとても高いことが分かりました。

しかしながら、選挙管理委員会で行っている啓発活動は、市民の皆様あまり周知できていない事・強い影響力を持っていない事が分かり、今後改善の余地を感じました。

また、期日前投票などの制度についても、選挙の度に広報がまくらに投票日とともに掲載していますが、まだまだ周知不足ということが分かりました。そのため、更に目につくような周知方法を検討してまいります。

選挙（啓発活動）について、市民の皆様意見を聞く機会がなかなかございませんでしたが、今回のアンケートで、たくさんのご意見、ご提案をいただきましたので、今後活動する上での参考にさせていただきます。

この度は、ご協力いただき誠にありがとうございました。

選挙管理委員会

【お問い合わせ先】

鎌倉市 経営企画部 秘書広報課 広聴担当

〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号

TEL 0467 (23) 3000 内線2505

FAX 0467 (23) 8700

e-mail : emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp